



## 埼玉県・さいたま市立大宮北高校 進路指導部

西本義人 + 佐々木秀一

「生徒のために!」という思いを軸に、  
より良く変わり続ける学校をつくるICTという「変化」を  
楽しむ学校にしたい

**西本** 本校ではICT化が進み、電子黒板やタブレットを使う授業も増えています。職員会議も既にペーパーレスが実現しています。ICTは生徒が学力を客観的に把握し、自学自習を進めていく際にも有効です。私たち進路指導部としては、ICTを、教師、生徒が十分に活用できるように、サポートすることが重要なテーマです。

**佐々木** GTECに挑戦している生徒は、スピーキング教材に自主的に取り組むなど、ICTを上手に使っていますよね。デジタルネイティブ世代の生徒はICTへの適応力がありますから、むしろ私たちが試行錯誤を恐れないことが重要です。

**西本** 既に授業にICTを取り入れている先生が自身の実践を校内に共有することで、ICTに抵抗感のある先生を少しずつ変えていく仕組みをつくりたいですね。最近では、授業スタイルの転換が求められていることもあり、ICTの持つ大きな可能性に注目しています。まずは、我々教師が「変化」を楽しむことが鍵になりそうです。

同僚に影響を与える  
進路指導部であり続ける

**佐々木** 本校の進路指導部も大きく変化しました。私が赴任した頃、本校の志望校検討は生徒本人の判断に全て任せればよいという雰囲気があり、客観データをしながら面談を行う先生は限られていました。そのような状況を受けて、生徒一人ひとりが立てた目標を教師が把握し、後押しすることで、学校全体に学びの雰囲気をつくりましようという先生方に声を掛けていきました。

**西本** 学校にはそれぞれの伝統、文化があります。しかし、生徒の人生を左右する進路指導については、全ての生徒が目標を実現できるように、学校全体でサポートする体制をつくるべきだと思います。私は赴任して、2学年団に所属したのですが、「Compass（\*）」を使った指導経験のある教師が少なく、私はその経験があったので、佐々木先生から3学年の面談担当に駆り出されましたよね。

**佐々木** 進路指導室の雰囲気も随分変わりました。3年前は生徒の出入りが少なく、過去問題集も施錠された書棚に収められていました。昨年からは開

教師の多様な価値観を  
調和させ、学校力を高める

教科指導にだけ、野球部の顧問も務め、進路指導でも学校を引っ張る佐々木先生の唯一の欠点は、人使いが荒いこと。ただし、「生徒のために!」と仕事の頼み方が上手なので、誰も断れません。万が一、他の先生が断っても、1人でやりながら、その後、協力してくれそうな先生を見つけ、仲間に巻き込みます。

生徒のために学年や組織の枠を軽々と超える佐々木先生の姿に、私は多くを学びました。ただ、学校にはいろいろな考え方の教師が存在し、多様な個性が調和することで学校全体の力になります。佐々木先生の意をくみ、根回ししていくのが私の役目だと思っています。佐々木先生とは良いコンビなのです。

埼玉県・さいたま市立大宮北高校  
西本義人 54歳

にしもと・よしと 教職歴30年。同校に赴任して3年目。進路指導主事。

\*ベネッセの進研模試の結果から、生徒一人ひとりの志望校や出願校の決定をサポートするシステム。

## 埼玉県・さいたま市立大宮北高校

◎進学指導重点校として、隔週での土曜授業の実施、2014年度より理数科開設と、学校改革を進める。また、視聴覚室や理科関係の講義室・実験室には、80インチの電子黒板9台を、全HR教室(25教室)には、電子黒板の機能を持ったプロジェクターを配備し、授業で活用。理数科では、生徒1人に1台タブレットを支給し、タブレットを自由に利用できる自習室「ICTラーニングルーム」も設置。教員でネットワークを構築し、ICTを活用したアクティブ・ラーニングにより、創造力や論理的思考力を養うインタラクティブな教育を実践する。

◎設立 1956(昭和31)年 ◎形態 全日制/普通科・理数科/共学 ◎生徒数 1学年約320人

◎2015年度入試合格実績(現浪計)

国公立大は、茨城大、宇都宮大、群馬大、埼玉大、埼玉県立大などに15人が合格。私立大は、青山学院大、芝浦工業大、中央大、東京理科大、法政大、明治大、立教大、早稲田大などに延べ736人が合格。

◎URL <http://www.city-saitama.ed.jp/ohmiyakita-h/index.htm>



架式の棚に一式収められ、生徒が気軽に利用できる場所になりました。

**西本** 外から見ると学校が一気に変わったように見えるかもしれませんが、内側から見ると、変化の動きはともゆっくりとしたものです。「若い佐々木先生が、自分とは違うやり方をしている。よく見てみるとなかなか良さそうだ。だったら自分もやってみよう」。そんなふうにして変わる教師が少しずつ増えているのだと思います。

**佐々木** どんな組織も無理やりに変えようとすると、ひずみが生まれてしまいます。かといって、手を掛けられもつ

と大きく伸びる生徒が目前にいるのに、「学校はこのままでいい」と手をこまねくわけにはいきません。

**西本** 私は、高校は百貨店のようなもので、一人ひとりの教師はテナントだと思っています。テナントに個性は必要ですが、自校の生徒の志望特性を理解し、夢をかなえるための後押しをするという、百貨店としての使命を果たす意味では一致団結することが必要です。これからも進路指導部として、ICTの活用を始め、学校づくりのコンセプトを校内に発信して、先生方と共に新しい道を歩んでいきたいです。

変化の時代だからこそベテランの存在が大きい

私にとって西本先生は、校内で一番気軽に話せる存在です。しかも、私の言葉に対して、「それってこういうこと?」「こんなことをやりたいでしょ?」などと、ご自身の豊富な経験を基に、私の考えを別の角度から解釈し直し、具体的な行動として提示してくださいます。進路指導部はたくさん生徒、教師と接するのの仕事ですから、西本先生と語り合うことで、自分の視野が広がるのはとてもありがたいことです。ICT活用やアクティブ・ラーニングなど、学校全体で新しい指導に取り組むべき時代だからこそ、生徒や同僚を引き付ける人柄と、人を変える影響力を持つ西本先生の存在をますます大きく感じています。



埼玉県・さいたま市立大宮北高校  
**佐々木秀一** 40歳

ささき しゅういち 教職歴18年。同校に赴任して5年目。進路指導部。